

銘柄分析レポート：連続増配企業（2024年版）

1 はじめに

2001年の12月末、ITバブル崩壊のあおりを受けて売られていた、ある企業に投資を行ったと仮定します。

買値は408円。配当利回りは0.73%です。その後、この企業は着実に1株益を伸ばしつつ、配当を増やし続けました（下表）。

決算期	1株益	配当性向	配当	配当累計
2002/3	5.1	0.58	2.98	2.98
2003/3	22.6	0.15	3.49	6.48
2004/3	46.2	0.13	6	12.48
2005/3	79.4	0.14	11.5	23.98
2006/3	75.1	0.18	13.33	37.31
2007/3	70.8	0.22	15.83	53.14
2008/3	81.4	0.22	17.5	70.64
2009/3	83.3	0.22	18.33	88.98
2010/3	79.6	0.27	21.67	110.65
2011/3	96.9	0.24	23.33	133.98
2012/3	96.9	0.28	26.67	160.65
2013/3	105.3	0.28	30	190.65
2014/3	132.9	0.33	43.33	233.98
2015/3	170.8	0.33	56.67	290.65
2016/3	197.6	0.35	70	360.65
2017/3	221.7	0.38	85	445.65
2018/3	235.5	0.38	90	535.65
2019/3	259.1	0.41	105	640.65
2020/3	275.7	0.42	115	755.65
2021/3	284.2	0.42	120	875.65
2022/3	300.0	0.42	125	1,000.65
2023/3	310.3	0.44	135	1,135.65
2024/3	301.3	0.46	140	1,275.65
2025/3	340.0	0.43	145	1,420.65

ずっと持っていた場合、2017年3月期の配当累計は445.65円となり、元本の408円を上回りました（税金は考慮せず、以下同様）。配当だけで投資を回収できています。

2025年3月期の配当累計は1,420.65円となる見込みで、元本の3.48倍に達します。単年度の元本利回り（買値に対する配当利回り）は35.54%です。

足元の株価も4,000円を超えており、10倍株となっています。

このような連続増配企業への長期投資は、個人投資家にとって、理想の投資です。今回の銘柄分析レポートでは、次の条件に合致する2社を取り上げます。

- 配当利回り3%以上
- 強固な事業基盤を有している
- 安定したビジネスを手がけており、景気の影響を大きく受けない
- 常識的に考えて、減配の恐れがほとんどない
- 長きにわたり配当を増やしており、今後の増配を半ば確約している